

# 関西詩人協会イベント・2015 講演と演奏と朗読・放送劇の午後

さまざまな苦難を乗り越えて迎えた戦後70年という今年、未来への希望を示す。

日時：2015年9月19日(土)

午後1時30分～5時 (受付1時より)

場所：ドーンセンター 1階パフォーマンススペース

大阪市中央区大手町1-3-49 TEL06 (6910) 8500

京阪電車・地下鉄谷町筋線天満橋より東へ350m

参加費：¥1,500円 (当日受付にて) \*飲み物付き

## \*プログラム\*

### 第1部

#### 講演「言葉の経験」

たかとう匡子 (兵庫県現代詩協会会長)

1939年神戸生まれ 神戸市在住

日本詩人クラブ・日本現代詩人会・日本文藝家協会会員

詩集：『ヨシコが燃えた』『学校』(第八回小野十三郎賞)

評論集：『竹内浩三をめぐる旅』『私の女性詩人ノート』



#### 楽器演奏

#### 石橋耕三 (クラリネット)

東京芸術大学卒

1970年京都市交響楽団入団

2006年楽団を定年退職

フリーの演奏家として活躍

後進の指導・地域活動に情熱を注ぐ



#### 石橋由美子 (バイオリン)

京都市立芸術大学卒

1969年京都市交響楽団入団

2009年楽団を定年退職

ソロ・アンサンブルで活躍



モーツァルト オペラ「魔笛」「ドン・ジョヴァンニ」より/エルガー「愛の挨拶」ドヴォルザーク「ユモレスク」/  
成田為三「浜辺の歌」/長野地方民謡「木曾節」アメリカ民謡「茶色の小瓶」

\*アンコールは「花が咲く」皆さん一緒に歌いましょう。

休憩

### 第2部

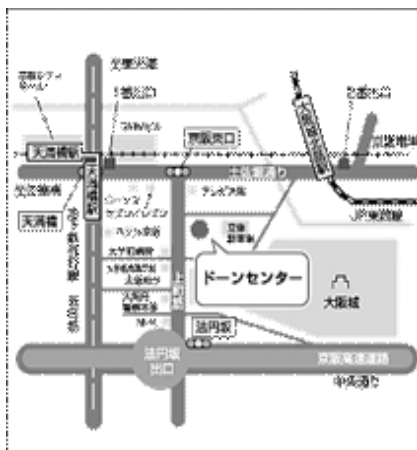
#### 戦後70年『いのちの記憶をつなぐ』

詩：有馬敲と関西の詩人たち

#### 放送劇『いのちを削る』

脚本：田村照視 京都放送劇団

地下鉄谷町線・京阪「天満橋」駅下車。東口方面の改札から地下通路を通して1番出口より東へ約350m。  
JR東西線「大阪城北詰」駅下車。2番出口より土佐堀通り沿いに西へ約550m。  
阪神高速道路東大阪線「法円坂」出口を出てすぐの交差点を左折。上町筋を北へ約5分。  
駐車場(普通車専用・収容台数92台)30分ごとに200円。最大料金2,400円



# 関西詩人協会会報

第78号

2015.7.1

発行者 有馬敲

- ① 関西詩人協会イベント・2015 講演と演奏と朗読・放送劇の午後
- ② 作品募集・ご意見募集について/協賛金について/運営委員会の模様
- ③ ④ 新入会員の詩(TAMAKO/三田村正彦/ハラキン/信定和美/青山麗/松原さおり/村上弘)
- ④ 新入会員の紹介(今井知春/秋月夕香/森下和真)
- ⑤ 新入会員の紹介(内田縁/深谷孝夫/平木光太郎/中山巧/加藤千香子/徳永遊)
- ⑥ 会員の活動/入退会者/住所変更/会員の最新刊書/団体の会報・図書

作品募集

会員各位殿

お元気にお過ごしのことと存じます。平素は、関西詩人協会にお力添えをいただきありがとうございます。

この度、皆さんの作品を掲載するコーナーを設けることになりました。このコーナーを存分にご利用いただき、会員同志の交流を深めて下さい。

詩のひろば 作品募集

投稿者 関西詩人協会 全会員  
 A4用紙 2～4ページ  
 発行日 会報発行に併せて当面2回 4月1日・10月1日  
 締切日 会報発行日の2ヶ月前 8月1日、2月1日  
 以後の到着分は次回掲載。  
 掲載料金など 無料・ただし、一回につき一人一篇とする。  
 一行24字詰・題を入れず32行まで。  
 送り先 郵送 639-1056 奈良県大和郡山市泉原町9-1  
 関西詩人協会 事務局 大倉 元  
 F A X 0743-52-0230 (お問い合わせは携帯 090-7097-6705)  
 メール ishishio@kcn.jp

ご意見募集

協会に対してのご希望や、ご意見があってもなかなか言う機会がありません。

そこで、直接ご意見をお寄せいただけるように事務局宛の封筒をお届け致します。(今回は古い封筒が残っており、それを使用しています)

どんなご意見でもお寄せ下さい。例えば、こんな人のお話を聞きたい。会報にこんなコーナーを設けてほしい。こんな企画を等々、どんなご意見でもかまいません。

お寄せ戴いたご意見は、運営委員会で取り上げ協会発展のために役立てます。

また、ご意見の内容によっては会報に掲載し、ご返事します。掲載時匿名希望の場合は、その旨お知らせ下さい。(おそれいりますが切手をお貼り下さい)

20周年記念事業への協賛金をいただきました。

20周年記念事業に際しては、記念誌に出版社等から広告掲載をいただきましたが、京友商事株式会社(京都銀行関連会社として創業、現在総合保険代理店として事業展開)様からも、寄付(3万円)をいただきました。ありがとうございます。

子引き孫引き

(編集部)

「大丈夫」と「しっかりしている」  
 「しっかりしている」は人物の芯が強い弱いかの、ものの性質を表します。

「大丈夫」は「強い男の人」から、心配いらない、まかせて安心の意味に使います。こちらが信頼できるかどうかという観点からの評価の言葉というわけです。

大野晋 『日本語練習帳』より

運営委員会の模様

日時 二〇一五年6月20日 午後2時～5時

場所 エル大阪 出席19名

①入退会 4名の入会を承認。退会者0。

②名簿 名前、メールアドレスの誤記、及び住所の変更等のチェックをすること。

③国際交流 『言葉の花火』への参加者66名。

翻訳者3名に、各22篇の詩を分担。7月中旬迄に翻訳を済ませる予定。詩篇の訳に悩み多し。翻訳に際して、言葉の意味理解・解釈に頭を悩ませます。

④会計報告「会費ご納入のお願い」送付により、会費の滞納はかなり改善されてきた。しかし数名ほどの長期滞納者は、再度通達し、返事なき場合は何らかのかたちで今後、退会等を含めて整理していく必要がある。

⑤詩画展 詩画展は、32名の参加者によって、十人十色の作品が並ぶ。「大阪日日新聞」に取り上げられ、好評のうちに終わる。

⑥詩話会 詩話会の出席者は56名。(内、朗読者10名・朗読グループ5名) 講師・瀬野とし氏の講演は好評。詩話会は、詩画展の会期に併せて開かれたことや詩画展の会場と隣接していたこと、相乗効果がありよかった。両収支報告。

⑦ホームページ「世界より」というテーマで、8月から会員の詩篇を掲載していく予定。

⑧総会 総会の講演の講師・倉橋健一氏に決定。演題「関西詩界の戦後を振り返る」。

⑨関西詩人協会イベント・2015 第2部 戦後70年「いのちの記憶をつなぐ」の内容報告  
 ⑩「詩のひろば」にタイトル承認。発行・4月1日、10月1日。各回・一人一篇。締め切り・発行・二カ月前。

⑪その他 (文責 吉田定一)

新入会員の詩紹介

10才の背中 T A M A K O

泥のついたスニーカーで  
学校のウサギ小屋の金網を  
おもいつき蹴飛ばした きみ  
隅っこで 怯えた目で  
きみを見ていたウサギ

「死んでしまえ！」  
まだ幼い口もどから  
戸惑いながらの言葉が  
投げつけられた

青空の下で<sup>もと</sup>  
どれほどの時が過ぎただろう  
もどつてきた きみは  
金網のへこみにもたれて  
うつむいていた

長い長い沈黙のあと  
聞きとれないほどの声で  
つぶやいた

「ぴーちゃん※なんか きらいだ」

10才の背中が揺れていた

※ぴーちゃん ウサギの名前

スローカーブ 三田村正彦

紙屋川にかかる橋は  
スローカーブの道に沿って  
ため息をついている  
淡雪が 欄干に落ちては消えて  
川面の煌めきは 一点に いっまで  
もとどまっている  
父の背中  
日輪のような すみれ草のような  
地下食堂のような  
慰めも  
僕の小さな手の  
赤いチョークのような  
直情も  
そこに集約されていた

ちちのバイクのうしろは  
ぼくのどくとうせきだった  
かみやがわ が ちかづけば  
ぼくは おののいた  
らつかを まぬがれたのは  
ちちの せなかの おかげ  
いきることの あんどと  
たよることの あんど  
を ちちが おしえてくれた

今の 紙屋川は  
スーパーマーケットの

賑わいもなく  
毎日  
僕の前を  
通り過ぎる

空は 懈怠をこぼしている

死なるもの ハラキン

10年前にオートバイの事故で  
死んだ友人と  
いまだに会えない  
あれ以来  
連絡もない  
死の不意打ちは  
ジョークのようで  
葬儀で棺のなかの顔をみても  
また近々会うのだろうと  
鼻歌じみた思考でいたが  
10年たっても  
いまだに会えない  
いまにも

右手をあげて

俺が飲んでる  
居酒屋に来そうだが  
来ない

墓にもいない(のだろう)

死は相対的な日常でないのか  
一生に数回ないのか  
この世は

意外とカタブツ

凡夫は

一回の生における

死なるものを学んだあと

生まれ変わり

なるものを学ぶ

溪流の向こう岸の

鹿とずっと目が合う

とある乳母車の

赤子とずっと目が合う

でも

死んだ友人とは  
もう永遠に会えない(のだろう)

発光体 信定和美

火炎は立ち昇り天辺に届き  
火炎光背を纏って  
戻ってきたように思える

私の寝床からするりと脱け出し  
私鉄の駅に向かった人  
二拍子の靴音が耳に残る

熱い照射に身の自由を失った  
何人も女たちが  
蛇のように身をくねらせ

這いまわり

スープを用意しパンを焼いた

スペアリブに

サラダボール一杯のセロリとレタス

白い素足は赤みを帯び

ヒールは踵が折れた

ある日はあご髯に右手を添えて腕を組む  
ある日は大きな目をしばたかせ空を仰ぐ  
ある日はくせ毛の頭を振り溜め息をつく  
ある日は原稿用紙に向かいペンを走らす  
ある日は鞆に書き物を詰めて飛び出した  
ある日はカッカと笑い私を抱き和ませる  
ある朝あたり前のように消えていた人よ

ああ纏った火炎光背は

公平でやさしさに満ちる

天辺は読誦の地であったのか

落ちてきた炎の欠片に焼かれた痕が

いつまでもチクチクと疼く

悦びの疼きのように思えるのだが……

海と老婆 青山 麗

夏の終わりの紺碧の海は  
 永い時を吸い込むかのように  
 ただ静かに横たわっている  
 ぼろ着の老婆は砂浜の木箱に座り  
 そんな海をじつと見つめている  
 いや 小さく虚ろな眼は  
 見ているようで 見ていないよう  
 でもある  
 黒く陽に焼けた老婆は  
 置物のように 身動き一つしない  
 壮大な海も ただ黙っている  
 施設の車が砂浜の傍に停まり  
 降りてきた中年の女が声を掛けた  
 老婆は振り向かない  
 女は小さな肩に手を置いた  
 老婆はそれでも動かない  
 女は諦めたように  
 何か言い捨てて去っていった  
 老婆は再び海と二人きりになった  
 どれくらい時間がたっただろう  
 海は赤く染まり始めた  
 木目の美しい彫刻のような  
 深く皺に刻まれた老婆の顔も  
 凄まじく燃えている  
 その姿は孤独そのものにも  
 満ち足りているようにも見える  
 細い眼はやはり 海の彼方に向け  
 られている

長い廊下 松原さおり

今朝  
 甥の仲間さんが  
 西瓜のようなかぼちゃを持ってきた  
 指折り数えたら四十年にもなる  
 朝ごはんもそこそこに  
 甥も姪も息子も近所の子どもたちも  
 長い廊下をドタドタペタペタトタト  
 タ走って  
 子ども部屋に飛び込む  
 一日中はちきれそうな子ども部屋  
 やがて父も母も亡くなり  
 長い廊下を途中で切った  
 昼下がり  
 一人ぼっち 頬杖ついて  
 此処はあの頃子ども部屋  
 長い廊下だったっけ  
 まっすぐ行ってドアを開けると  
 母さんが大鍋の蓋を取ってた  
 とろけそうなかぼちゃ かぼちゃ  
 かぼちゃが  
 うしろでふわつと匂う  
 ……………

何番目 村上 弘

小さな悩みを抱えて歩く  
 月明かりの公園の真ん中を  
 ビルの明かりに囲まれた陸橋の上を  
 そして考える  
 私は何番目だろうか  
 何番目 何番目  
 この街で  
 この国で  
 この世界で  
 何番目に幸せなのだろうか  
 何番目 何番目  
 この街で  
 この国で  
 この世界で  
 何番目に幸せなのだろうか  
 何番目 何番目  
 この街で  
 この国で  
 この世界で  
 何番目に幸せなのだろうか  
 隣の小母さんよりも  
 東京の伯父さんよりも  
 中東の青年よりも  
 ヨーロッパの少女よりも  
 私は幸せなのだろうか  
 答えのない問いは  
 いつも  
 私の小さな悩みを消し去ってくれる

ちよつと焦げたけど  
 母の大鉢に  
 伸ちゃんのかぼちゃを山高く盛った  
 食べきれない  
 カナカナカナカナ 笑ってる

編集の都合で一行あたりの文字数が変わってしまったことをお詫び致します。  
 (編集部)

新入会員紹介

今井知春氏



若い頃、立原道造や中原中也など、限られた運命的な条件のもとで豊かに歌いあげられた作品集を読み、心を打たれました。そしていつか詩を書きたい…と思いつつ定年退職を迎え、ほそぼそと詩らしきものを書き始めました。

秋月夕香氏



関西詩人協会の会合にもお誘いいただき、何回かお邪魔をいたしました。私は「このて」に所属して少年詩をかいてまいりました。しかし、文学の世界は奥深く一生涯の勉強でございます。これからも精進いたしたいと存じますのでよろしくご指導くださいませ。

森下和真氏



学生のころから詩の断片のようなものを書いていました。それが、それを詩として発表するとは考えてもいませんでした。

その後、詩の会に所属して「詩」を發表するようになって、つくづく読み手あつての詩なのだと思います。

**内田縁氏**

鹿児島

県出身、三重県鈴鹿市在住。

関西詩人協会に入



会させていただきありがとうございます。たくさんの糸を結んでいただき大阪へ来ています。蚕が桑の葉を食べていくように文字や色を楽しみたいです。リヴィエール、瑠璃の坏所属。

**深谷孝夫氏**

五月晴れの映える季節に入会させていただけ機会を与えてくださり、改めて心にスイッチが入っております。



私は現在公民館でウォーキング団体のリーダーをしています。詩においても健康長寿を活かし、共感が得られる作品を書きたいと思っていますので、末永いご交誼をよろしく願います。

**平木光太郎氏**

詩は、誰もが持っている心の内

面を映し出す鏡。

**詩II言の葉**

を見つめることは自分探しの旅路と思ひ、今日まで書き綴りてきています。そして、さまざまものに宿る想いを、切々と言葉に、自分にも周りの人にも詩に託して届けた



い。詩を友に 詩と共に人を自然を愛していきたくらいそう願っています。

**中山巧氏**

六十三歳ですが、詩歴はわずか十五年です。三重県の志摩から熊野に至る、リア



ス式海岸の小さな漁村に住んでいます。芦浜原発で揺れた旧町の一つでもあります。家から徒歩三十秒もあれば海が見えます。港の風景はいつ見ても心が癒やされます。

**加藤千香子氏**

申年の長所短所まるまる。

戦争中百姓の仕事、皇軍慰問でドサ廻り。雨の音聞いたことあるかと



問われたり。脊椎カリエス八年。そ

の間、三重詩人錦米次郎の薫陶を受ける。第一詩集『ギブスの気象』。フランス滞在の時イタリアで民族舞踏でいわゆる銀メダル。第二詩集『塩こおるこおる(ナビール文学賞)』83歳これから第三、第四詩集他次々。

**徳永遊氏**

近江詩人会。「詩学」誌に投稿を始め、四年目に新人推薦を受ける。詩集『雲子』上梓。女性三人で詩誌を發行。八年間続ける。



その後、別の文芸誌に所属し現在休刊となる。気ままに絵も描いてきました。感性も気力も薄れていく一方で、詩と絵は自分の欲求が失せるまで如何様な形ででも続けていこうかと思っています。

**HP更新情報**

会員の部屋に、辻田武美「気がかり」、植野高志「残り火」、早川玲子「逃げた形容詞」を掲載しています。掲載期間は5月1日より7月31日。テーマは「光」です。前回の詩からアーカイブすることになりました。委員の詩の部屋も充実してきています。「関西詩人協会」で検索してご覧下さい。

**《会員参加の詩誌》**

あ・う・ん 5号	あ・う・んの会
ア・テンポ 4号	ア・テンポの会
アリゼ108号	以倉紘平
イリヤ 15号	尾崎まこと
Messier 15号	松村信人
P O 157号	香山雅代
いのちの籠	左子真由美
ERA 4号	川中子研究室
KAIGA No. 99	原口健次
ガイア 51No. 52号	ガイア発行所
風の音 8号	たかとう匡子
交野が原 78号	金堀則夫
銀河詩手帖 270号	近藤摩耶
交差点 15号	直原弘道
呼吸 138号	京都現代詩話会
コールサック 81・82号	佐相憲一
サイプレス 11号	岸田裕史 個人誌
柵 7号	志賀英夫
詩人会議 53号	詩人会議
詩人学校 776〜778号	近江詩人会
詩遊 No. 45・46	詩遊社
軸 115号	熊井三郎
叢生 197・198号	叢生詩社
東国 149号	東国の会
どうるかまら 17号	瀬崎祐
1/2 45・46号	近野十志夫
ノア 第35号	ノア出版
野の花 53〜56号	文芸サークル「野の花」
花 62号	花の会
腹の虫創刊号	くにさだきみ
風鐸 5号	司茜
別冊 關學文芸 50号	松村信人
ぼとり 37・38号	武西良和 個人誌
みえ現代詩 96号	みえ現代詩の会
ばらいろ爪 10号	北原千代 個人誌
ラビーン 194号	薬師川虹一
リヴィエール 139・140号	横田英子
瑠璃坏 5号	青木はるみ

関西詩人協会 会員の活動

有馬敲氏・4月1日、日本現代詩歌文学館振興会評議員に就任。4月18日、京都「拾得」でミュージシャン小室などとともに自作詩朗読と関西フォークに関する語り。フォークシンガー故・高田渡らと創刊したミニコミ誌「ぼとこいあ」が京都新聞5月9日付で紹介される。5月30日、静岡放送のラジオ番組「替え唄なう」の録音構成に出演。

尾崎まこと氏・3月14日『K foto 写真合同コンペ』で最優秀・3月17日〜22日ギャラリーMAGにて終了写真展出品・4月28〜5月3日海岸ギャラリーCASOにて『M6写真展』仲間6人と競演・4月25日あべのベルタにて詩の実作講座「リルケ・『若き詩人への手紙』を読む」を講義。

近藤摩耶氏・日本現代詩歌文学館振興会評議員に就任。左子真由美氏・2月15日、「まほろばの会」(茨木・クリエイトセンター)にて、詩「窓」「音もたてずに」が歌われた。3月1日、京都音楽サークル協議会のコンサートにて詩部門の選考委員。

佐相憲一氏・『女性のひろば』誌に連載「光る詩―深い心の贈りもの」。「道路」誌に詩「路地裏」。「はだしの街」誌に速水晃詩集評。

白川淑氏・4月19日「花話会」(山本十四尾主宰)で、こやまきお氏による「白川淑の詩姿の原点」として、エッセイ集『京のほそみち』より「宵ざくら」「しだれざくら」を朗読、合評、鑑賞された。

すみくらまりこ氏・上村多恵子氏・5月8、9日イタリア・コモ市で行われた詩祭「Europa in Versi」に参加。外村文象氏・「コールサック」82号に、エッセイ「一月往ぬ 二月逃げる三月去る」八十歳の日記」詩「生命のバトン」掲載。

中村純氏・5月16日京都で詩と思想編集部「ラクダが針の穴を通るとき」公開座談会のパネラーを務める。中尾彰秀氏・詩を朗読する詩人の会「風」のゲスト、4月詩朗読きやらばん(代表・永井ますみ氏)＋風、5月岩井洋氏、6月中西衛氏、(以後予定)7月名古きよえ氏、9月吉田定一氏。5月10日EARTH P.O.E.M PROJECT「ガットネロ」。7月5日詩の教室「和歌山市NPOサロン」にて『プロフェッショナル

ル』(武西良和詩集)を扱う。7月12日「音楽文化堂」にてEPPライブ。  
永井ますみ氏・詩朗読きやらばん、4月12日東京で開催。この時、名古きよえ氏、田村照視氏、市原礼子氏同行。5月2日北上にて朗読会。市原礼子氏同行。5月19日岡山にて朗読会開催。いずれも「詩朗読きやらばん」として

名古きよえ氏・3月東京美術の朴へ「たそがれ」30号を出展。5月3〜6日相国寺の林光院にて「別事学道(講義と座禅)」に参加。「平和を願う芸術家の集まり」に「山彦」30号を出展。5月29〜31日彦根であった「山脈の会(平和を願う会)」に参加。

村田辰夫氏・日本翻訳家協会副理事長に就任。藤谷恵一郎氏・5月23日、詩の実作講座(阿倍野ベルタ・市民学習センター)で、大江健三郎『沖繩ノート』について講義。

安森ソノ子氏・5月5日ラジオFM「子供の時間」で英語と日本語で金子みすずの詩を三題朗読。

吉田定一氏・3月24〜30日、「はごろも詩書展(浜寺公園駅ギャラリー)」。4月12日、「グーチョキパー活動10周年記念コンサート」於、童謡「うしさん」他三作、溝川辰夫氏の作曲で歌われる。(アプラホール)。4月13〜20日、シニアNACK展に油絵小品4点出品。(マサゴ画廊)。  
《募集中の賞など》

第26回 伊藤静雄賞作品  
第7回 更科源蔵文学賞  
第26回 富田碎花賞  
《入・退会など会員の移動》  
永年会員  
境節氏、森田魚山氏、香山雅代氏  
入会者  
徳永遊氏、油谷京子氏、深谷孝夫氏、加藤千香子氏、今井知春氏、内田縁氏、伊藤眞司氏、おうえさちこ氏、岡田直樹氏、柏原智氏

退会者  
田中章子氏、玉置幸孝氏、奈良光男氏、川田あひる氏、かりたれいこ氏、船木紗代氏、平岡けいこ氏、逝去  
桂あさみ氏、進一男氏  
《住所変更等》  
オコス 大阪市中央区谷町1-5-11キャッスルバー502  
佐古祐二氏 大阪狭山市大野台7-14-1

《会員の最新刊詩書》

鮑浦敏『トゥバラーマを歌う』(土曜美術社出版販売)  
神田さよ詩集『傾いた家』(思潮社)  
門林岩雄詩文集『生きる』(竹林館)  
佐藤勝太詩集『ことばの影』(コールサック社)  
中尾彰秀ピアノCD「メビウスの花畑」EPP26 inピノテラス「EPP27 inガットネロ」(森羅通信の会)  
中西衛詩集『波濤』(竹林館)  
名古きよえ詩集『濡標』  
三浦千賀子詩集『今日の奇跡』(竹林館)  
吉田定一詩集『朝菜夕菜』(竹林館)

《団体の会報・図書》  
日本現代詩人会報 138号  
詩界通信 70号 日本詩人クラブ  
現代詩 2015 日本現代詩人会報  
北海道詩人会報 No.138  
秋田県現代詩人協会会報 第51号  
秋田県現代詩年鑑 秋田県現代詩協会  
山形県詩人会報 第27号  
岩手県詩人クラブ会報 第88号  
群馬県詩人クラブ会報 291  
福島県現代詩人会報 109号  
詩祭 講演と朗読のつどい 福島県芸術文化団体連合会  
・福島県現代詩人会報

茨城県詩人協会会報 20号  
千葉県詩人クラブ会報 No.229  
横浜詩人会通信 No.294  
福井県詩人懇話会会報 88  
平成27年度 中日詩人役員名簿中日詩人会  
中日詩人会会報 No.183  
岐阜県詩人集 第2号 岐阜県詩人会  
三重県詩人集 23 三重県詩人クラブ  
オコス No.205 大阪文化団体連合会  
中四国詩人会ニュースレター 第37号  
高知詩の会 13号

鳥取県現代詩人協会会報 第32号  
島根県刊詩集 第43号 島根県詩人連合  
島根県詩人連合会 会報  
福岡県詩人会 会報No.161  
いちご通信 大分県詩人連盟会報 第11号  
大分県詩人協会会報 142号

関西詩人協会事務局 ⑦ 639-1056 奈良県大和郡山泉原町九一一大倉元方  
編集 永井ますみ ⑦ 651-1213 神戸市北区広陵町一―一八石井方  
編集担当者のメールアドレス DZM03624@nifty.com

関西詩人協会会報 第七十八号 発行者 有馬敲  
次号原稿〆切り八月末日です